



粗の反対の精が出たので、ついでに「青」のつく字を考えてみましょう。晴・清・情・静・請のほか、晴・靖という字もあります。

青は、<sup>青</sup>が本字で、<sup>セイ</sup>生と丹の合字です。丹石という石から赤色の染料をとるのですが、同時に青の染料もとれるので、あかを<sup>タン</sup>丹と言い、あおを“丹より生ずる”という意味で“<sup>青</sup>”とし、発音は“生ずる”のセイを取ったのです。あかとあおとは色の基本ですので、絵の具や絵のことを「丹青」と呼ぶことがあります。

清は、水の青くすきとおって見える状態を言います。「濁」に対する字ですが、今では、水に関係なく、清潔、清新など、広く汚れのない意味に使います。

晴は、青空と日とで“はれ”の意味を表わしています。清も晴も、“すぐれた状態”ですから、“青”は“すぐれて良い”という意味を持つようになりました。

情は、心のすぐれた状態を意味しています。“思いやりの心”です。人情、情愛。

請は、情をこめて言うこと。“ま心こめた言葉”という意味です。請願

請求。

靖は、落ちついて、静かに立っている状態を表わしています。“安定”していることですから“しずめる”“やすらか”の意味に使われます。

靖国。

静は、争いを“しずめる”意味から、“動かない”“しずか”の意味に使われています。静止、安静。

晴は、目の最も大切なところ“ひとみ”です。西洋人のひとみは文字通り「青い目」をしていますね。

静は、水が静かにさざ波も立てずに流れている所、つまり“とろ”を言います。埼玉の長瀬、吉野の瀬八丁など。